

平成 24 年 11 月 6 日

平成 25 年 3 月期 第 2 四半期決算の概要

株式会社川島織物セルコン
京都市左京区静海市市原町 265

1. 25 年 3 月期第 2 四半期の個別業績（平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 9 月 30 日）

(1) 個別経営成績

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25 年 3 月期第 2 四半期	15,061	△3.1	307	—	328	—	301	—
24 年 3 月期第 2 四半期	15,542	△17.6	△141	—	△291	—	△325	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25 年 3 月期第 2 四半期	25,913		10,214			39.4
24 年 3 月期	27,820		10,018			36.0

2. 経営状況について

【全体の状況】

LIXIL グループ入りして2年目となる当会計期間においては、シナジー効果の拡大へ向けた協働営業やクロスセルの実践、新規商品の開発、営業拠点の統合などが進み、効果が少しずつ形になって現れてきました。4月にはLIXIL 京都ショールーム内に当社オーダーカーテンショールームをオープンし、窓や室内建具などのLIXIL 商材とのトータルコーディネート提案ができるようになりました。

一方、当社ならではの伝統に培われた高い技術力や企画提案力が評価され、緞帳を始めとした美術工芸部門の受注が好調でした。7月には渋谷ヒカリエ内の劇場（東急シアターオーブ）に、50年前に納めたル・コルビジエの緞帳をタペストリーに再現し納めることが出来ました。

また、商品の強化策としては、日本総代理店となったインターフェイスフロア社（米国）の新商品を7月に、環境配慮型のオーダーカーテンシリーズ「FELTA」を8月に全面リニューアル発売し、販売促進に努めました。

当会計期間における売上高は、身装・美術工芸事業は堅調に推移したものの、インテリアファブリック事業の売上が伸び悩んだことから、前年同期比4億81百万円（3.1%）減収の150億61百万円となりました。

損益については、生産性の向上を目指した全社運動や、原価低減・経費削減の効果などにより大幅に改善し、営業利益は3億7百万円（前年同期は1億41百万円の営業損失）、経常利益は3億28百万円（同2億91百万円の経常損失）、四半期純利益は3億1百万円（同3億25百万円の四半期純損失）となり、中間期としては10期ぶりに黒字転換しました。

【事業別の状況】

[身装・美術工芸事業]

帯を中心とした呉服部門が東日本における震災影響の反動もあり堅調に推移したことに加え、緞帳や祭礼幕などを扱う美術工芸部門も売上が伸長したことから、売上高は前年同期比36百万円（3.8%）増収の9億79百万円となりました。

営業利益については、増収に加えて原価低減・経費削減の効果などにより、同58百万円増益の87百万円となりました。

[インテリアファブリック事業]

ホームマーケット（個人消費者向け）への販売が商品絞り込みの影響もあり前年を下回ったこと、官公庁・法人・商業施設などのコントラクトマーケットへの販売が伸び悩んだことなどから、売上高は前年同期比5億15百万円（3.5%）減収の140億82百万円となりました。

営業利益については、利益率の高い商品の販売推進や原価低減による利益率の向上、経費削減の効果などにより、同3億62百万円増益の2億52百万円となりました。

以上